

製品名: mGluR1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13857**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	GRM1
別名	GRM1; GPRC1A; MGLUR1; Metabotropic glutamate receptor 1; mGluR1
遺伝子 ID	2911.0
SwissProt ID	Q13255
免疫原	抗血清はヒト GRM1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 251-300

背景

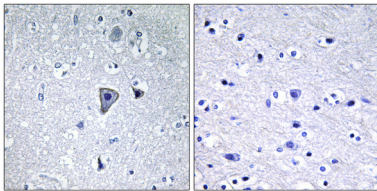
グルタミン酸代謝型受容体 1 (GRM1) Homo sapiens この遺伝子は、ホスホリパーゼ C を活性化することで機能する代謝型グルタミン酸受容体をコードしています。L-グルタミン酸は中枢神経系の主要な興奮性神経伝達物質であり、イオンチャネル型および代謝

型グルタミン酸受容体の両方を活性化します。グルタミン酸作動性神経伝達は正常な脳機能のほとんどの側面に関与しており、多くの神経病理学的状態では障害される可能性があります。コードされているタンパク質の標準的な α アイソフォームは、ジスルフィド結合したホモ二量体であり、その活性は G タンパク質共役ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムによって媒介されます。この遺伝子は、統合失調症、双極性障害、うつ病、乳がんなど、多くの疾患状態に関連している可能性があります。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。 [RefSeq 提供、2013年5月],機能: グルタミン酸受容体。この受容体の活性は、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化する G タンパク質を介して制御される。海馬における長期増強や小脳における長期抑制など、中枢神経系におけるグルタミン酸の中枢作用に関与する可能性がある。類似性: G タンパク質共役受容体 3 ファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合。PPXXF モチーフは HOMER1、HOMER2、および HOMER3 に結合する。SIAH1、RYR1、RYR2、ITPR1、SHANK1、SHANK3、および GRASP と相互作用する。、

研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;ギャップ結合;長期増強;長期抑制;

画像データ



GRM1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。